

景況レポート

(5月分・情報連絡員 80名)

大震災の影響根強く、県内景況は低迷

【概況】5月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが5.0%（前月調6.3%）、「悪化」が66.3%（同63.8%）で、業界全体のDI値は-61.3となり、前月調査と比較して3.8ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-50.0で前月調査（-34.4）に比べ15.6ポイント下回った。また、非製造業全体は-68.8で前月調査（-72.9）と比較して4.1ポイント上回った。

物流の回復や生産工場の復旧とともに、商品や資材の不足が解消されつつある一方、県内の食料品製造業は特需が無くなり、また、販売不振を警戒するアパレルメーカーの対応により繊維製品の受注も減少傾向にあり、製造業の売上や資金繰りが大幅に悪化した。連休頃から行楽や宴会等の動きも出てきたが、日常生活においてはまだまだ節約傾向にあり、住宅着工の動きも鈍く、回復は感じられない。（回答数:80名 回答率:100%）

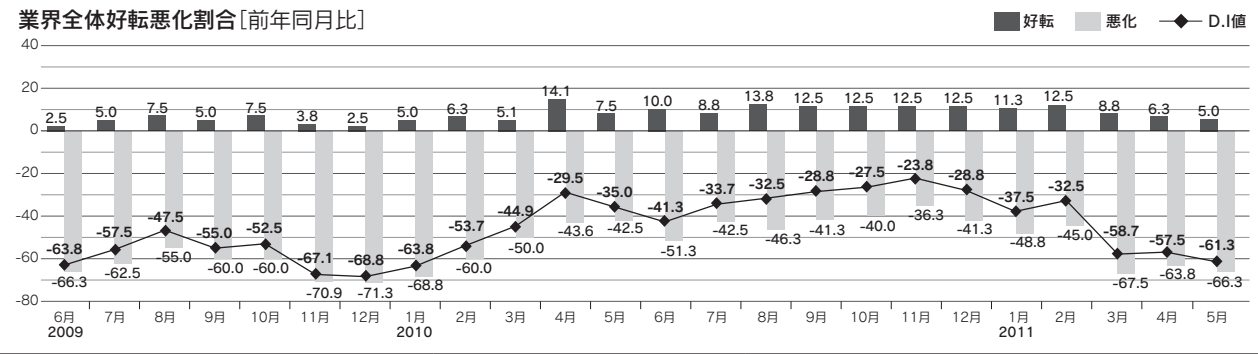
項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種	製造業	非製造業	製造業	非製造業	製造業	非製造業

【凡例】

- 快晴 30以上
- 晴れ 10以上 30未満
- 曇り △10以上 △30未満
- 雨 △30以上 △10未満
- 雷雨 △30以下

【天気図の見方】
前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index（ティフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。



業界の声

- 製穀・製粉業** 前月に比べて前年同月比のマイナス幅が縮小しており、個人消費はだいぶ戻ってきたと感じている。4月末に観光地の売店が動き始め、一時的に需要が発生したが、まだ団体客が動かないため、追加の需要はなかった。
- 乳製品** 福島第一原発事故の影響で原乳が出荷停止となり、また、風評被害も発生し、業績は低下している。また、スーパーでは震災時に臨時で仕入れた先との取引が継続となり、売り場に県外製品が増加している。
- ニット製品** 東京及び関東圏で夏場に行われる大規模な節電に対応し、各アパレルとも夏物衣料の早期セール開始を予定している。例年であれば、5月はまだ正規価格品の生産時期であるが、今年はセール対応のための工賃ダウン交渉や、在庫リスク回避のための発注量抑制などの事態が起きている。
- 一般製材** 原木は、被災地の製材工場が確保していた分が秋田県に回ってきて、かなりの量が流通しており、若干値を下げている。
- プレカット** 仮設住宅用材の引き合いはあるが、50棟、100棟など数量が大きく、一般の住宅を引き受けながらでは対応できないものが多い。
- 機械金属** 先月よりは材料が動いてきたが、まだ元通りというわけにいかず、従業員を休ませている工場もある。また、新卒者採用の話もあまり聞えてこない。
- 自動車販売** 【自動車】5月の新車販売台数は、登録自動車1,275台(前年同月比59.5%)、軽自動車が1,501台(同80.7%)で、合計2,776台(同69.3%)であった。
- 石油販売** 【石油】ガソリン1ℓ当たり153円で前月比1円引き上げ、軽油1ℓ当たり133円で前月比2円引き上げ、配達灯油は18ℓで1,780円と前月比23円の引き上げとなった。大震災の影響による需要の冷え込みに加え、月末には小売価格の値崩れが起きたため売上が減少した。
- 商店街** 【秋田市】テレビのアンテナ工事、小型薄型テレビの需要等が有り、家電販売の売り上げは前年並みに推移しているが、全体ではやや悪化している。
【能代市】まだまだ精神的に震災前の状態には戻っておらず、飲食店や衣料品店の売上が減少している。
- タクシー** 県外からの観光客は減少したが、繁華街での利用は回復傾向にある。
- トラック運送** 秋田港に到着する救援物資(原木、豚舎の材料、牛乳パック等)を岩手県まで運ぶこととなり、地域輸送の動きは良かった。